



.....
 バンクーバーで活躍するアーティストたち...
 彼らはこのバンクーバーで何を感じ、何を創造しよう
 としているのだろうか？ そんな彼らに焦点をあて、彼
 らの想いを追う！

(取材・文：内海さおり)

.....

Flamenco Dancer Nanako Aramaki

リズムによって勢いよくかき鳴らされるギター、聴き手の魂を揺さぶる情熱的な歌声、独特なステップを踏みながら鮮やかに、そして蝶のように華麗に舞う踊り子。スペイン南部アンダルシア地方のヒターノ（ジプシー）たちによってもたらされたスペインの伝統舞踊“フラメンコ”。この情熱的なフラメンコの世界に魅せられた日本人女性がいる。Nanako Aramaki。バレエに熱中していた彼女がフラメンコダンサーになった経緯とは？

ハマったら辞められない、それが“フラメンコ”

ステージ以外で会うフラメンコダンサーNanakoは、そのダイナミックで情熱的な踊りを披露している時とは対照的な、小柄で清楚な可愛らしい女性。東京で生まれ、3歳の時に両親と共にカナダに移住。バレエとモダンダンスをしていた母の影響で彼女がバレエを習い始めたのも丁度その頃だという。「とにかく小さな頃から踊っていましたね。2歳くらいの時からすでにStevie Wonderの曲で踊っていたそうですよ（笑）」。成長するにつれ、彼女の踊りの幅はバレエからジャズ、ヒップホップへと広がっていった。

そんなNanakoがフラメンコに出会ったのは、彼女が16歳の時。フラメンコを習っていた母からの強い薦めだった。「最初は全く興味がなくて、軽い気持ちで始めたんです。ただ、バレエで踊りの基礎ができていたせいか、いきなり上級クラスに入れられて...。先生や周囲の期待もあったし、私自身、“自分が何処までやれるか”見届けたくなったんです。それからハマっちゃいましたね」。一度ハマったら辞められない、それが“フラメンコ”だ。

人生を楽しむ余裕がなければ踊れない

フラメンコの魅力は、ギター、カンテ（歌手手）、バイレ（ダンサー）の“三位一体のリズム”であることはもちろんのこと、観る者の魂をも揺さぶる“表現の豊かさ”にあると言えるだろう。「踊っている時はそのキャラクターに入り込んでいますね。哀しい曲



Photo by Adam PW Smith

だが、スペインを訪れた際、フラメンコを日常として育った人々の踊りを見てショックを受けた。「感じたままに踊っているのに、凄いやつをするんです。自分はフラメンコのこと、何も分かっていなかったんだ、と思い知りました」。

彼女が尊敬するメキシカの教師夫婦はスペインでフラメンコの修行をした。当時のスペインでは、スペイン人以外の人間がヒターノたちと踊ることに偏見と差別があったが、彼らはそれを乗り越え、フラメンコ界でも著名なダンサー&ギタリストになった。

「彼らの生き方には惹かれますが、実際に行動に移すのは難しい。フラメンコは楽しんで踊りたいんです」。

そんな彼女のモットーは「人生を楽しむ」こと。人生を楽しむ余裕がないと踊れない、そして人生は楽しまない意味がない。

だと哀しい気持ちになる。フラメンコは踊りを通して感情表現をしているんです」。フラメンコを知れば知るだけ、のめり込んでいく。彼女の生き方はフラメンコのリズムのように情熱的だ。

Nanako Aramaki

1983年東京生まれ。3歳の時に一家でカナダに移住。ウェストバンクーバーのハイスクールを卒業し、現在UBCに在学中。16歳の時にフラメンコに出会い、18歳でグループデビュー。2004年には『Quadro Flamenco』にてソロデビューを果たした。Cambie St.にある『Kino Caf』にて、去年の1月から現在まで2週間に一度（木曜日、たまに金曜日も）フラメンコを披露している。今年11月にはプロフェッショナルショーに参加予定。

Kino Cafe

住 3456 Cambie St. Vancouver, BC V5Z 2W8

電 604-875-1998

営 月～金15:00-1:00 土・日11:00-1:00

Kino Cafでは、水～日の21時よりフラメンコショー有り。Nanakoのフラメンコを観たい場合は、日時等、お店に要確認。



↑Top